

じゅしゅう

元旦会 厳修

令和八年一月一日、十四時からではありませんが、元旦会の法要をお勤めさせていただきました。ご参拝の皆さまと新年のご挨拶の後、正信偈の読経、そして寺西覚水先生のご法話をお聴聞させていただきました。先生は昔ながらの節談説教という高座に正座し、節をかけたながらのご法話です。

楽浄土で、仏のいのちに必ず生まれさせてみせると、私に喚び届けてくださっておられます。

以前、お寺に若い女性から電話があつたそうです。軽い感じの話し口調で、お母さんの一周忌にお経を読んでももらえませんか、とのご依頼。突然のことで驚いたけれど、ゆっくりお話を聞くと、お母さんは岡山県で若くして急に亡くなられた。お葬式は何とか務めたものの、近くでお寺を探しなさいと勧められ、大阪で探していたそうです。

日時の約束などはメールでやり取りをされていたそう、話しの流れでお寺を見てみたいと来山されたそ

うです。お寺に来られて、まずはお焼香をしてもらい、また少し仏さまのお話をさされました。浄土真宗では仏さまにならせてもらうのです。阿弥陀さまは悩み苦しむ私たちを見捨てることのできない仏さま。讚仏偈には「一切恐懼、為作大安」とあります。生死の苦にこのくすべての人々に、大きな安らぎを与えようと言われています。仏さまになつてくださったお母さんは、お念仏に出会い、安心して生きる私のことを喜んでくださるのだと思う。阿弥陀さまはそうであってほしいと願っておられるのです、と話をされました。

法事の日にはご主人と二人でお参りしてくれたそうです。お勤めをしてご法話をし、そして最後に御布施

第82号
(通算422号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室
・2月18日(水)
10時~11時半
・参加費500円

浄覚寺雅楽教室
・2月24日(火)
19時~20時半
・参加費1000円

浄覚寺ピアノ教室
・2月 金曜日開催
(月3回)



を預かると、その中には一枚の便箋が入っていたそうです。そこには「今日は有難うございました。母も阿弥陀さまも喜んでくれたと思います。」と書かれてあつたそうです。法事を務め、故人はもとより阿弥陀さまが喜んでくれたと言われたことが嬉しかったとお伝えくださいました。

様々な縁の中で私が手を合わせ、故人を偲び、仏法を聞かせていただく身とならせていただいたことは、阿弥陀さまの一番の喜びなのだと味わうことができました。

この世の縁の尽きるとき

如來の浄土に生まれては

きんりの智慧をいただいて

あらゆるいのちを救います

『浄土真宗の救いのよろこび』



御文章に聞く(第75回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

当流聖人章(五帖第十八通)
 当流聖人の・すすめまします安心といは、なにのようもなく・まず、わが身のあさましき罪のふかきことをばうちすて、もろもろの雑行雑修のころをさしおきて、一心に阿弥陀如来後生たすけたまへと・念にふかくたのみたてまつらんものをば、たとえ・十人は十人・百人は百人ながら・みなもらずたすけたまうべし、これさらに・疑うべからざるものなり、かようによくころえたる人を・信心の行者といふなり、さてこのうえには・なおわが身の後生のたすからんことの・うれしさをおもいださんとときは、ねてもさめとも・南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏と・となうべきものなり、あなかしこ あなかしこ

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。もともと「雑行」は、阿弥陀仏の浄土を願う者にふさわしくない行ということでした。そこには「雑多な行」(さまざままな行)という意味があり、また「目的が阿弥陀仏の浄土往生以外にも通ずる行」という意味もありました。しかし、「正行」の中核たる「正定業」が、本願の行であるからということになりますと、その反対の「雑行」とは、本願を拒絶する自力を意味するものとなります。時代と共に、浄土教を取り巻く状況も変化し、複雑化します。それにもなつて用語もさまざまに変化してきました。蓮如上人はそれを整理されて、「雑行雑修」とは阿弥陀仏の本願のはたらきを拒絶して、自力に閉じこもる者のあり方を示す言葉として用いられているのです。これを捨ててこそ本願他力を受け入れることができるのです。そこで「雑行雑修自力の心を捨てて…」と表されたのです。

仏教語辞典



隠れ念仏
 薩摩藩や人吉藩による念仏禁制によつて弾圧された浄土真宗の門徒が、表面上は違う宗派に属しながら密かに信仰を守つたことをいう。一五〇〇年代後半から明治初期までの約三百年の間、弾圧は続き、信仰が明るみになった場合、拷問や処刑が行われていた。そのため、門徒は「講」という組織を作つて密かに本願寺と通じながら洞穴の中で法座を

『気になる仏教語辞典』
 著・麻田弘潤 誠文堂新光社
 仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。先日、ご法事でお勤めの仏説阿弥陀経を聞き、「阿耨多羅三藐三菩提」という言葉に聞き覚えがあるとのこと、どんな意味なのかとたずねられました。何でも昔のテレビ番組で戦隊ヒーローが誦文のように称えていたそうです。調べました。梵語の anuttara samyak sambodhi を音写した言葉で「真理を悟つた仏さまの境地」のことだそうです。どんなことでも質問されると嬉しいですよ。(釋法道)

開いたり、柱の中やまな板に似せた木箱に御本尊を隠すなどしながら信仰を守り通した。

浄覚寺の公式LINEにぜひ登録ください。デジタル「じゅこう」をお届けします。



三月二十日(祝) 十四時より
 春季彼岸会 法話 朝山大俊先生

行事案内

日時・二月八日(日) 十四時より
 行事・第六回 仏教文化講演会
 講師・橋本健人先生
 テーマ・カルタでシャータカ物語
 お釈迦さまの前世のお話しを「シャータカ物語」といいます。そんな物語を題材にして、皆で遊べるように製作されたものが「シャータカルタ」です。カルタのデザイナーである橋本先生をお迎えし、仏教の背景にある物語を聞かせていただきます。(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)

